

## 令和7年度 投資事業評価調書（総合事業等審査会-継続事業）

部課室名	福祉部ユニバーサル 推進課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 岩切 玄太郎 (社会参加支援班主幹 越智 明日香)	内線	73640 (73646)
事業種目	福祉	新規評価年度	平成30(2018)年度	現計画	前回評価時点
事業名	ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）整備事業	事業採択年度	平成30(2018)年度	総事業費	(今後調整) 33億円
		着工年度	—	内用地補償費	(今後調整) 0億円
事業概要	○整備場所 神戸市西区曙町（県立総合リハビリテーションセンター内 特別養護老人ホーム万寿の家跡地）敷地面積約7,611m <sup>2</sup> ○施設規模 鉄骨鉄筋コンクリート造3階建・延床面積 約7,828m <sup>2</sup> （前回評価時点）	完成予定期 度	(今後調整) 令和5(2023) 年度	進捗率 (用補進捗率)	0% (—%) 0% (—%)
		再評価年度	令和3(2021)年度	残事業費	(今後調整) 33億円
	事業の目的			事業内容	
	県内パラスポーツの中核拠点である県立障害者スポーツ交流館の隣接地に新たな障害者スポーツ施設を整備し、同館と一体的に運営し、障害者のスポーツ参加の機会を提供するとともに、県大会等開催や指導者育成等の中核拠点としての機能の充実によりパラスポーツのさらなる振興を図り、障害者の社会参加を促進する。			※前回評価時からの社会経済情勢の変化等を踏まえて今後調整 (前回評価時点の施設概要) アリーナ、温水プール、卓球室、アーチェリー場、トレーニング室、更衣室、研修室、資料展示スペース、屋内駐車場	
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	① 県政改革方針令和4年度実施計画において、本事業の見直しを決定（民間投資等導入の可否を含めた整備・運営の手法、財政状況を踏まえた整備のタイミングについて検討）  R3年4月から建設予定地にて埋蔵文化財発掘調査を実施したところ、当初の想定より深い場所に遺構が広がっていることが判明し、調査範囲を広げて再調査を行う必要が生じた。これを受け、R3年7月に工事入札を中止し、着工時期の遅延が確定した。 このような状況の中、コロナ禍の影響の拡大や、持続可能な行財政基盤確立に向けた県政改革方針の策定など、平成30年度の施設基本構想策定時より大きな環境変化が生じた。また、多額に上る整備費や維持管理・運営費など、将来的な財政負担を考慮する必要が生じたことから、民間資金やノウハウの活用によるコストの圧縮やより良いサービス提供の可否を含めた整備・運営の手法を検討し、さらに県財政状況を踏まえた最適な整備時期の検討を行うこととした。  ② 資材価格や労務費の高騰等による全国的な建設費の増  コロナ禍による世界的なサプライチェーンの混乱や、急激な円安の進行による原材料輸入物価の高騰、働き方改革関連法施行による建設業界における時間外労働の上限規制導入等により、建設費が全国的に高騰している。				
	【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 (県内スポーツ施設の現状を踏まえた最適な施設のあり方について広く検討中)				
進捗状況	・全国の障害者優先スポーツ施設等整備事例におけるPFI導入状況を調査 ・HYOGOスポーツ新展開検討委員会内ユニバーサルスポーツ分科会開催 障害者スポーツの振興を通じた共生社会の実現に向け、パラスポーツ拠点施設のあり方を含めた本県のより一層の障害者スポーツ振興のあり方について総合的な検討を実施（令和5年10月～令和6年3月） ・ユニバーサルなスポーツ施設検討会を開催し、県内スポーツ施設の現状を踏まえた最適な施設のあり方について有識者、関係団体等により検討（令和6年8月～継続中）				
評価視点		評価結果の説明			
審査会意見及び対応方針	【審査会意見】継続妥当 ・ 【対応方針】 資料2-1(H30年度新規事業評価)及び資料2-2(R3年度前回事業評価)のとおり				
(1)必要性	1 障害者スポーツを支える施設環境の状況  スポーツに取り組む障害者が、それぞれの目的や目標に応じてより積極的に取り組むためには、ニーズに応じた施設環境の整備が求められるが、一般的なスポーツ施設の現状として、車いす使用者が利用可能な駐車区画やトイレなど施設のバリアフリー化が障害者のニーズに十分に応えられていない、障害者スポーツ用備品の未整備等により特定の競技での利用ができない（例：シッティングバレーボール、サウンドテープルテニス）、施設管理上の問題から一部競技での利用が認められない（例：車いすバスケットボール）など、施設におけるハード面等の課題がある。 (SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」に資する取組)				

	<p><b>2 県立障害者スポーツ交流館における需要過多</b> 本県では、障害者スポーツの中核拠点として、県立障害者スポーツ交流館（神戸市西区内）及び県立ふれあいスポーツ交流館（たつの市内）を運営している。障害者スポーツ交流館においては、大会や教室を活発に実施していることもあり、アリーナの稼働率が99%を超えており、予約が取りにくくなっている。</p> <p><b>3 関係団体からの意見</b> また、令和5～7年度に行った障害者団体、障害者スポーツ競技団体等19団体への意見聴取では、東京パラ、神戸世界パラ陸上、来年度のアジアパラ競技大会等の国際大会開催により、パラスポーツへの関心は平成30年度当時よりますます高まっており、パラスポーツ競技人口やスポーツ意欲を持つ障害者が増加しているため、施設の利用ニーズは依然として高いとの意見や、この契機を活かしてパラスポーツの理解をさらに広めたいとの意見等が寄せられており、新たな障害者スポーツ全県拠点施設の整備への期待は変わらず高い。</p> <p>&lt;障害者スポーツ交流館のアリーナの稼働率等&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td><td>99.6%</td><td>99.5%</td><td>99.2%</td></tr> <tr> <td>利用者数</td><td>66,509人</td><td>69,446人</td><td>71,316人</td></tr> </tbody> </table> <p>&lt;県内パラスポーツ大会・イベント参加者数&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td><td>20,508人</td><td>29,530人</td><td>36,439人</td></tr> </tbody> </table>	区分	R4年度	R5年度	R6年度	稼働率	99.6%	99.5%	99.2%	利用者数	66,509人	69,446人	71,316人	区分	R4年度	R5年度	R6年度	利用者数	20,508人	29,530人	36,439人
区分	R4年度	R5年度	R6年度																		
稼働率	99.6%	99.5%	99.2%																		
利用者数	66,509人	69,446人	71,316人																		
区分	R4年度	R5年度	R6年度																		
利用者数	20,508人	29,530人	36,439人																		
<b>(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)</b>	<p>1 障害者スポーツ交流館のアリーナの高い稼働率が解消され、多くの障害者にスポーツに親しむ機会を提供することが可能となる。</p> <p>2 県内における障害者スポーツの中核拠点である県立障害者スポーツ交流館との一体的な運営による相乗効果・相互補完により、県大会等の開催や指導者の育成などの中核拠点としての機能の充実が図られる。</p> <p>3 総合リハビリテーションセンター内の各施設等との連携により、パラアスリートの義足の開発や動作分析、リハビリテーション中央病院で治療を終えたアスリートの復帰支援など、アスリートの総合的なサポート体制の構築が可能となる。</p> <p>4 全国の障害者スポーツ施設の9割以上が、障害者の施設使用料を無料とし、残りの施設においても健常者の半額程度と低額な料金を設定している。 県立障害者スポーツ交流館においては、障害者の使用料を、健常者の半額程度に設定しており、新施設も同様の料金設定を想定している。 事業の性質上、採算性を求めるることは難しいが、障害者スポーツ交流館との一体的な運営による効率化や、空調管理・節水の徹底などにより無駄を省き、経費節減に努める。</p> <p>5 全国の障害者スポーツ施設等の整備・運営事例におけるPFI導入状況調査を行ったところ、令和4年度時点で整備済の障害者スポーツ施設は全て従来手法による整備事例だったが、昨年度より、PFI方式による整備・運営について検討を行う事例や、検討の結果、PFI方式による整備・運営を決定した事例も出てきており、全国的に民間活力導入の推進は着実に図られている。 現時点では検討段階にあるが、本施設の整備が決定されれば、整備費・運営費の圧縮やより良いサービス提供に向く、民間資金やノウハウの活用の可能性について十分に検討を図る予定である。</p> <p>(SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」に資する取組)</p>																				
<b>(3)環境適合性</b>	<p>太陽光発電パネルの設置や、屋上・敷地の緑化、ガスコーチェネレーションシステム※の導入など、環境に配慮した施設とする。</p> <p>※ 都市ガスを用いて発電し、その際に発生する排熱を冷暖房や給湯などの用途に利用することにより、省エネルギー・省CO<sub>2</sub>を図るシステム。</p> <p>(SDGs目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に資する取組)</p>																				
<b>(4)優先性</b>	<p>1 障害者スポーツへの関心の高まり 東京パラリンピックや神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会を契機としたパラスポーツへの理解の高まりを踏まえ、パラスポーツの裾野を拡大する絶好の機会である。</p> <p>2 県有地の有効活用 事業用地（県有地）上の既存建物は解体撤去済みであり未利用地として管理中であるため、早期の有効活用が望ましい。</p>																				
<b>継続事業の評価結果</b>	左の理由																				

## 事業進捗状況概要図（継続）

事業名	ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）整備事業	設備名	ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）
位置図	 		
事業箇所			
(出典) 国土地理院			
全体	<p>事業進捗状況・予定</p> <p>県政改革方針令和4年度実施計画に基づく本事業見直しを踏まえ、民間等導入の可否を含めた整備・運営の手法、財政状況を踏まえた整備のタイミングについて検討中</p> <p>(前回評価時点) 事業費 33 億円</p>		整備効果

# ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）設計概要

前回評価（R3年7月）時点

## 1 背景・目的

- ・障害者スポーツの活発化 県内障害者スポーツ大会参加者：延べ約 7,700 人 (H25) → 約 39,900 人 (H30)
  - ・県立障害者スポーツ交流館に隣接する福祉施設「万寿の家」の移転
- 障害者スポーツのさらなる振興を目的として、多くの県民にスポーツに参加する機会を提供する

ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）を整備

## 2 設計コンセプト

### （1）活気・賑わいの表出と周辺住環境への配慮を両立

- ① 既存スポーツ交流館のある東側を開放的に設え、賑わいを見せる外観デザイン
- ② ボリュームの大きいアリーナを南側に配置し、北側の住宅地の日照、景観に配慮

### （2）メイン廊下を軸とした利用しやすく居心地のよい共用スペース

- ① 南北に貫くメイン廊下から全ての機能にアクセスできる、明快な動線計画
- ② 吹抜けを介して 2 階とつながる、明るく開放的なエントランスホールと交流ラウンジ

## 3 新施設の機能

### （1）「障害者スポーツ交流館」の機能拡充

- ・アリーナ（バスケットボールコート 2 面）
- ・トレーニング室

### （2）新たに導入する機能

- ・温水プール（公認 25m × 6 コース）
- ・卓球室（STT\* 対応、計 6 台程度）
- ・アーチェリー場（射距離 50m × 6 的）
- ・研修室（2 室分割可）

\*STT : Sound Table Tennis



## 4 施設概要

### （1）建設場所：神戸市西区曙町 1215-1 県立総合リハビリテーションセンター内（「万寿の家」跡地）

敷地面積：約 7,611 m<sup>2</sup>

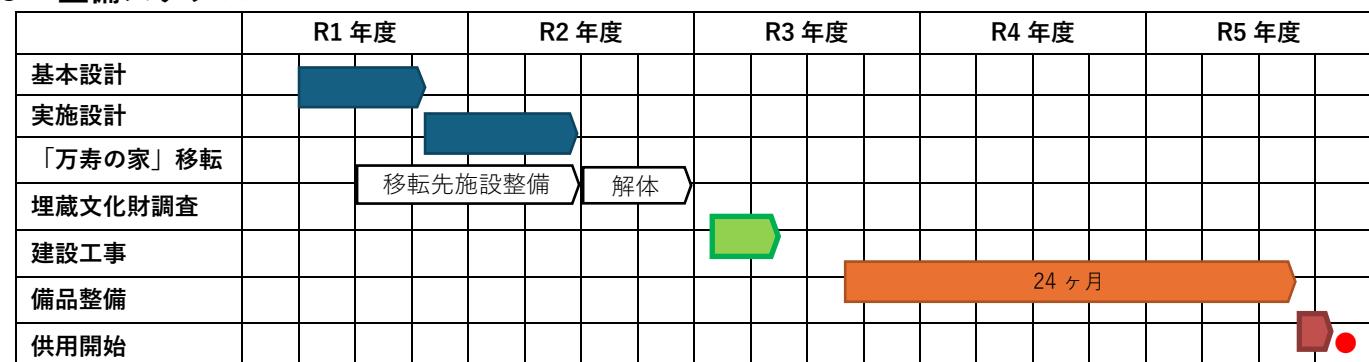
用途地域：第 1 種中高層住居専用地域

### （2）構造・規模（予定）

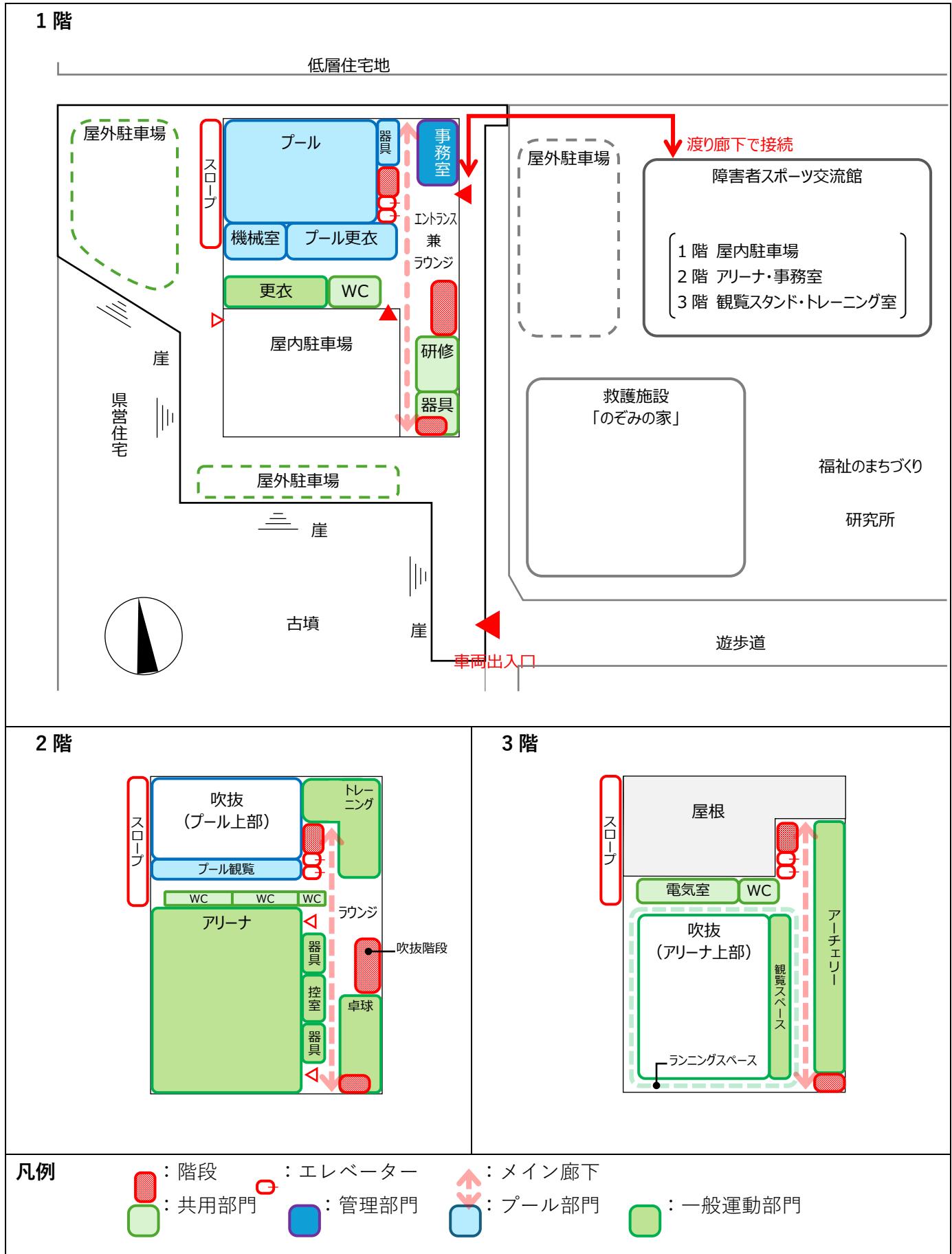
鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）3 階建て 延べ面積 約 7,827 m<sup>2</sup>

### （3）総事業費：約 33 億円（設計監理費 約 1 億円、建設工事費 約 32 億円）

## 5 整備スケジュール



## 6 平面計画(基本設計)



事業名 (審査日)	審査結果	審査結果への対応状況等	
		審査時点での事業計画内容	実施段階での事業内容
ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称) 整備事業  (H31.1.28)	<p>世界的潮流であるソーシャルインクルージョンの一環となる障害者の社会参加の促進は、地方公共団体にとって重要な役割となる。さらに、障害者にとってスポーツは、リハビリや身体の健康維持はもとより、日々の充実した暮らしや交流を育むために欠かせない存在となっている。また、東京2020パラリンピック競技大会やワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を控え、障害者スポーツへの関心はますます高まっており、県内の障害者スポーツ大会への参加者も近年大きく増加している。</p> <p>一方で、現在2箇所ある県立障害者スポーツ施設は、いずれも稼働率が高く、新たに障害者スポーツに関心を持った障害者の利用需要に十分に対応することができない状況にある。また、障害の程度等に応じて多様化している種目に、市町や民間の施設では応えることができない状況にある。</p> <p>新たに整備予定の「ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)」は、アリーナや温水プールをはじめ、全国・県域レベルのスポーツ大会を開催できる充実した設備を備え、これまで対応できなかった多くのニーズに応えるとともに、隣接する障害者スポーツ交流館と一体となって、障害者スポーツの裾野拡大、そして障害者の社会参画にも寄与するものと考えられる。</p> <p>さらに、総合リハビリテーションセンター内各施設と連携を図ることにより、パラアスリートの義足開発や動作分析、治療後の復帰支援、指導者の育成など、障害者スポーツの中核的拠点として、競技者への幅広い支援を展開していくことが期待される。</p> <p>以上のことから、当事業の推進は妥当である。なお、事業推進にあたっては、次の点に留意すること。</p> <p>① 施設の設計及びソフト事業等の検討にあたっては、障害者や関係団体など当事者の意見を最大限に取り入れること。</p> <p>② 基本構想検討委員会委員として、パラアスリート2名、関係団体4名に入ってもらい検討を進めたほか、競技団体や聴覚・視覚障害者等の関係団体からの意見を聴取している。今後も当事者の意見を取り入れながら進めていく。</p>	<p>① 設計に際し、競技団体や障害者スポーツ交流館利用者の意見を聴取し、可能な限り当事者意見を設計に反映した。</p> <p>また、障害当事者から評価の高い県外施設の視察結果やチェックアンドアドバイス制度の福祉のまちづくりアドバイザーからの点検・助言についても、設計に反映させた。</p> <p>ソフト事業の検討においては、今後も当事者の意見を取り入れながら進めていく。</p> <p>(1) 施設利用者・競技団体等への意見聴取(随時実施) (主な相手方)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県車椅子バスケットボール連盟</li> <li>・兵庫県身体障害者アーチェリー連盟</li> <li>・障害者スポーツ交流館を利用するパラリンピアン(卓球)</li> <li>・ひょうご障害者スポーツ指導者協議会 等</li> </ul> <p>(2) 県外施設の視察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市舞洲障がい者スポーツセンター(アミティ舞洲)</li> <li>・京都市障害者スポーツセンター</li> <li>・東京都障害者総合スポーツセンター</li> <li>・ナショナルトレーニングセンター・イースト</li> </ul> <p>(3) チェック&amp;アドバイス制度の活用 実施期間:令和2年4月13日～5月21日 【チェックアンドアドバイス制度】</p> <p>福祉のまちづくり条例に基づき、病院、商業施設、銀行など多数の方が利用する施設について、県が登録する「福祉のまちづくりアドバイザー(建築専門家等)」をあっせんし、利用者目線から施設整備と管理運営に関して点検・助言を実施する制度</p> <p>(4) 主な設計への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ アリーナの床材として、現在主流となっているタラフレックスではなく、車いす利用でも沈み込みの少ない木製床を採用</li> <li>・温水プール 当初設置予定のプールサイドのジャグジーについて、車いすでは利用しにくいという意見により設置を取りやめ、車いす移動に必要なスペース確保及び採暖室スペースを充実</li> <li>・卓球室 国際大会に向けた練習会場としても利用できるよう、床の色に国際大会色(赤色)を採用</li> <li>・アーチェリー場 屋内施設としては全国最大規模の射距離50mに対応</li> <li>・敷地内通路 通路(インターロッキングブロック舗装)の色は、同系色の濃淡が少なく凸凹に見えにくいものとし、弱視の方などに配慮 また、スロープと通路は明確な色分けにより存在の容易な識別に配慮</li> </ul>	

事業名 (審査日)	審査結果	審査結果への対応状況等	
		審査時点での事業計画内容	実施段階での事業内容
ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)整備事業  (H31. 1. 28)	<p>② 総合リハビリテーションセンターはもとより、他の幅広い関連施設との連携を含めた効率的事業推進に努めること。</p> <p>② 障害者スポーツ交流館との一体的な運営、総合リハビリテーションセンター内施設との連携の観点から、(社福)兵庫県社会福祉事業団を指定管理者とすることを想定し、効率的な事業推進に努める。</p> <p>しあわせの村などの他のスポーツ施設等との役割分担と連携のもと、施設環境を効率的に整備する。</p> <p>企業、大学、病院等との連携のもと、義足等の開発や治療後の復帰支援などアスリートを総合的にサポートする施設として整備する。</p> <p>(参考)基本構想における整備の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ しあわせの村などの他のスポーツ施設等と連携し、役割を分担して、障害者スポーツの振興や健康・長寿を支える施設環境を効率的に整備する。</li> <li>・ 総合リハビリテーションセンター内の各機関や企業、大学等と連携し、パラアスリートの義足の開発や動作分析、リハビリテーション中央病院でスポーツ障害の治療体制が構築された上は、治療を終えたアスリートの復帰支援など、アスリートを総合的にサポートする施設とする。</li> </ul>	<p>② 近隣施設の状況、用地の制約等を総合的に勘案して、屋内競技の設備を優先整備し、観覧スペース付きアリーナやプールなどを整備予定の当施設と、一定の広さが必要な屋外競技設備や宿泊施設等を有する神戸市しあわせの村との間など、当施設及び障害者スポーツ交流館と他施設の互いの強みを活かし、相互連携による全国大会の開催などが可能となるよう、さらなる協力体制の構築等について検討を進め、障害者スポーツの振興や健康・長寿を支える施設環境の効率的な整備に努める。</p> <p>また、義足等の開発や治療後の復帰支援などアスリートを総合的にサポートするための体制整備に向けては、総合リハビリテーションセンター内で、リハビリテーション中央病院におけるスポーツ医学診療センターが開設された。(令和3年4月1日)</p> <p>効率的な事業推進を行うため、令和3年度から、指定管理者として想定している(社福)兵庫県社会福祉事業団とともに、供用開始に向けた施設運営に関する検討委員会において、関連施設との連携を含めて、具体的な検討を行う予定としている。</p>	

事業名 (審査日)	審査結果	審査結果への対応状況等	
		審査時点での事業計画内容	実施段階での事業内容
ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称)整備事業  (R3.7.13)	<p>①当事者意見の反映 ハード・ソフト事業の検討にあたっては、当事者の意見を最大限に取り入れるため、今後も計画の節目において、関係者に意見の反映状況を確認しながら進めること。</p> <p>②施設機能の検討 ・スポーツを用いて、リハビリを促進するカウンセリングのような機能を持つことが重要。 ・体育館での騒音対策について近隣住民への配慮が必要。  ・地域によっては障害者スポーツの指導者が慢性的に不足しているため、障害者スポーツの指導者養成やアップデートができるパイロット的な施設とすることも視野に入れてほしい。</p> <p>③インクルーシブ社会への情報発信に努めること。 インクルーシブの観点で、この施設が1つのベンチマークのようになることが望ましい。単に障害者の方々に最適化されたというだけではなく、障害者の視点から一般社会へのメッセージとなるような流れが生まれればよい。障害者施設に限定されない取組にすること。</p>	<p>① 工事に着手する段階での説明会等の機会も活用し、引き続き意見の反映に努める。</p> <p>②・県立リハビリテーション中央病院のリハビリ部との連携を検討中。 ・アリーナを住宅地と反対の南側に配置することで一定の距離を確保予定。賑わいが出てくることは確実なので、近隣住民に対しても施設機能を丁寧に説明し、理解を得るよう努める。 ・障害者スポーツの事業としてマルチアスリートサポート事業を実施中。単に競技の指導をするだけでなく、作業療法士や義肢装具士などを派遣し、義肢・義足の相談や、理学療法士による身体の動かし方の指導などのソフト事業を実施している。</p> <p>③ 現在、オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスターズゲームズの記念事業として、交流大会を実施している。健常者の方のチームと障害者の方のチームと一緒に卓球大会やボッチャ大会などに参加するほか、普及事業として毎年障害者スポーツ体験会を開催している。さらなる発信を念頭に置き、継続して取り組んでいく。</p>	<p>※ 令和3年度総合事業等審査会後に県政改革方針令和4年度実施計画により本事業の見直しが決定されたことから、民間等導入の可否を含めた整備・運営の手法、財政状況を踏まえた整備のタイミングについて検討中。 また、整備のタイミングの検討と並行して、整備に向けて、障害当事者からの評価の高い全国障害者優先スポーツ施設の視察や、県内スポーツ施設の利用者・競技団体等の意見を聴取。</p> <p>(1) HYOGO スポーツ新展開検討委員会内ユニバーサルスポーツ分科会開催 (令和5年10月～令和6年3月) 障害者スポーツの振興を通じた共生社会の実現に向け、パラスポーツ拠点施設のあり方を含めた本県のより一層の障害者スポーツ振興のあり方について、総合的な検討を実施。 令和6年3月にHYOGOスポーツ新展開検討委員会の提案書「HYOGOスポーツエコシステム」を知事あて手交。 提案書「HYOGOスポーツエコシステム」内ユニバーサルスポーツ分科会関連記載内容 ・障害者と健常者が一緒に参加できるインクルーシブなスポーツ活動の機会を増やす ・障害特性に応じた指導体制や競技道具の購入支援などパラアスリート強化支援の仕組みづくり ・スポーツ施設のユニバーサルデザイン化に向けて、ハード・ソフト両面での現状調査を実施 ・市町等と連携して、地域特性に応じた圏域・市町域でのインクルーシブなパラスポーツ拠点づくり ・モルックやボッチャ、ペタンクなど年齢や性別、障害の有無に関係なく楽しめる競技を積極的に普及 ・女性が生涯にわたりスポーツを楽しむ機会の確保やスポーツ環境の整備 ・年齢、性別、障害の有無に関係なく、天候や場所にとらわれないeスポーツの普及</p> <p>(2) ユニバーサルなスポーツ施設検討会開催 (令和6年8月～継続中) ユニバーサルなスポーツ施設検討会を開催し、県内スポーツ施設の現状を踏まえた最適な施設のあり方について有識者、関係団体等により検討 ・県内スポーツ施設へのアンケート調査 ・障害当事者からの評価の高い県内スポーツ施設の視察 　・神戸市立磯上体育館 　・神戸市立市民福祉スポーツセンター 　・コナミスポーツクラブ三田 　・県立障害者スポーツ交流館 ・アンケート調査や視察による現状把握を踏まえ、ハード・ソフト両面での課題を整理 ・県内スポーツ施設への支援方策の方向性を検討</p> <p>(3) 全国障害者優先スポーツ施設等整備事例におけるPFI導入状況調査 ・横浜市障害者文化スポーツセンター（ラポール上大岡） PFI導入検討なし ・岐阜県福祉友愛プール・福祉友愛アリーナ PFI導入検討なし ・堺市市立健康福祉プラザ（スポーツセンター） PFI導入検討なし ・徳島県障がい者交流プラザ（障害者スポーツセンター） PFI導入検討なし ・北九州市障害者スポーツセンター（アレアス） PFI導入検討なし ・名古屋市障害者スポーツセンター PFI導入検討の結果、従来方式採用 ・大阪市長居障がい者スポーツセンター PFI導入 ・堺市大浜体育館 ※一般スポーツ施設 PFI導入 ・GLION ARENA KOBE ※一般スポーツ施設 PFI導入 ・ポートアイランドスポーツセンター ※一般スポーツ施設 PFI導入検討中</p> <p>(4) 県外施設の視察 ・大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（アミティ舞洲） ・京都市障害者スポーツセンター ・東京都障害者総合スポーツセンター ・名古屋市福祉スポーツセンター ・岐阜県福祉友愛プール・福祉友愛アリーナ ・日本財團パラアリーナ</p>

- (5) 施設利用者・競技団体等への意見聴取  
(主な相手方)
- ・兵庫県車いすバスケットボール連盟
  - ・兵庫県身体障害者アーチェリー連盟
  - ・兵庫県シッティングバレー ボール連盟
  - ・ひょうご障害者スポーツ指導者協議会 等

